

山田修 東海村長4期就任インタビュー

広告

企画・制作 建設未来通信社広告部



「豊かな村」を次世代へ継承 村民とともに夢のある未来像を描く 東海村 山田 修 村長に聞く

阿漕ヶ浦周辺を面的整備

9月7日に行われた東海村長選挙で、4期目の当選を果たした山田修村長。「今回の就任は3期の延長線ではなく、新しい4年間のスタート」と語る。本年度からスタートした総合計画「まちづくりの羅針盤」で掲げた4つのビジョンをもとに、ハーフ面とソフト面とともに見直し、豊かな村を次世代へと引き継いでいきたいと話す山田村長に、就任にあたっての抱負や重点事業について、あわせて建設業界への思いなどを聞いた。

就任の抱負

今回で4期目の当選となりました。今回の就任は3期の延長線ではなく、新しい4年間の始まりであると感じています。また本年度は、村発足70周年を迎えた記念の年。この70年間を振り返ってみると、さまざまな場面で生活が豊かになったと感じられるようになった。この豊かな村を次世代に引き継いでいくためには、これを契機として改めてハーフ面とソフト面の両方の基盤を見直しが必要であると考えている。

これからの4年間は、豊かな村を次世代に引き継ぐための大切な期間になる。

施設については継続事業として進めているものも多いが、改めて「豊かな村を次世代に引き継ぐための政策」を策定して改めてハーフ面とソフト面の両方の基盤を見直しが必要であると考えている。

この「幸福度の向上」を追求していく。

また「まちづくりの羅針盤」実現に向けた取り組みとして、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の推進、「安心・安全・安心の確保」として明記している。毎年度の具体的な事業をまとめている「実施計画」と合わせ、総合計画の実現に向けて推進していく。

建設関係では、「新たな

基盤整備」の一環として国道の4車線化に伴う村松・石神地区の新たな地区運営を進めてきた。24年度で計画期間が終了するにあたり、本年度から29年度までの5年間を計画期間として新たな総合計画として「まちづくりの羅針盤」、「いのくら」のデザインと現実を策定。名称も改め、新たな気持ちで計画を推進し、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、村民との協議をしていく。

また「まちづくりの羅針盤」実現に向けた取り組みとして、5年間で取り組む

別計画の策定、人々の交流促進や利便性向上をめざす

松・石神地区の新たな地区運営を進めてきた。24年度で計画期間が終了するにあたり、本年度から29年度までの5年間を計画期間として新たな総合計画として「まちづくりの羅針盤」、「いのくら」のデザインと現実を策定。名称も改め、新たな気持ちで計画を推進し、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、村民との協議をしていく。

現在は、国道6号の4車線化を進めているが、その

緩和し、直売所や店舗など

が進出できないかと考えていています。

周囲には店舗などが少なく、工事完成後は単なる通

過道路になってしまう可能性がある。地域住民の生活

の利便性向上に向け、店舗などの整備ができないか検討している。

周辺には景勝地があり、その

や大神宮などがあり、その

周辺には景勝地が広がっている。村松地区整備として

村では周辺地域活性化計画

に合わせた阿漕ヶ浦周辺の

面的整備を計画している。

具体的には、国道245号の阿漕ヶ浦公園人口のT

字路を十字路に改め、J

IPARCへのアクセス道

路付近に駐車場などを整備

して、村松海岸へ気軽にアクセスできる散策路として

利用できるよう計画している。

付近では豊かな景観と砂防林の機能回復を目的に

行っている植樹活動「リ

ジエネプロジェクト」を行っており、地域住民や

観光客などが自由に散策、交流できるような場所となれば、村へ人が訪れるきっかけになるのではないかと考えている。

本年度は整備に向けて基本計画の策定を進めている。来年度以降の整備着手目標に、インフラ整備と合わせて事業を促進していく。

具体的な計画がまとまっていない段階ではないが、国道6号の4車線化に伴い周囲

石神地区整備については、また、コミュニケーションセンターのバリアフリー化を推進。石神・村松・白方コミュニティセンターへのエレベーター設置について、公共交通事業者および利用者からの意見や要望などの聞き取りを行っており、再整備計画を進めている。

まちづくりの羅針盤をもとに、ハーフ面とソフト面とともに見直し、豊かな村を次世代へと引き継いでいきたいと話す山田村長に、就任にあたっての抱負や重点事業について、あわせて建設業界への思いなどを聞いた。

▼山田修（やまだ・おさむ）
1961年4月26日生まれ。64歳。高崎経済大学経済学部卒。2010年4月から東海村副村長を務め、13年に東海村長に初当選した。趣味はランニングで「次回の勝田マラソンも出場予定。今から調子を整えています」。

プロフィール

私は、村の公共工事のほか、東海まつり後の清掃や海岸清掃など、村内のボランティア活動に積極的に参加していただき感謝を申上げる。ボランティア活動は、建設業についてアピールになってしまっていると感じているため、引き続き協力をお願いしたい。

建設業界は、若手技術者の確保が難しい中で、さらには、建設業者が多い上規制など厳しい状況に働き方改革や時間外労働の上限規制など厳しい状況が続いているかと思う。しかし、CT施工の促進や海外での整備を行っていく。

ベーター整備を計画している。本年度と26年度で整備に向けた実施設計を進め、二ティセンター、27年度で別計画の策定、人々の交流促進や利便性向上をめざす

松・石神地区の新たな地区運営を進めてきた。24年度で計画期間が終了するにあたり、本年度から29年度までの5年間を計画期間として新たな総合計画として「まちづくりの羅針盤」、「いのくら」のデザインと現実を策定。名称も改め、新たな気持ちで計画を推進し、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、村民との協議をしていく。

現在は、国道6号の4車線化を進めているが、その緩和し、直売所や店舗など

が進出できないかと考えていています。

周囲には店舗などが少なく、工事完成後は単なる通

過道路になってしまう可能

性がある。地域住民の生活

の利便性向上に向け、店舗などの整備ができないか検討している。

周辺には景勝地があり、その

や大神宮などがあり、その

周辺には景勝地が広がっている。村松地区整備として

村では周辺地域活性化計画

に合わせた阿漕ヶ浦周辺の

面的整備を計画している。

具体的には、国道245号の阿漕ヶ浦公園人口のT

字路を十字路に改め、J

IPARCへのアクセス道

路付近に駐車場などを整備

して、村松海岸へ気軽にアクセスできる散策路として

利用できるよう計画している。

付近では豊かな景観と砂

防林の機能回復を目的に

行っている植樹活動「リ

ジエネプロジェクト」を行っており、地域住民や

観光客などが自由に散策、交流できるような場所となれば、村へ人が訪れるきっかけになるのではないかと考えている。

本年度は整備に向けて基本計画の策定を進めている。来年度以降の整備着手目標に、インフラ整備と合わせて事業を促進していく。

具体的な計画がまとまっていない段階ではないが、国道6号の4車線化に伴い周囲

石神地区整備については、また、コミュニケーションセンターのバリアフリー化を推進。石神・村松・白方コミュニティセンターへのエレベーター設置について、公共交通事業者および利用者からの意見や要望などの聞き取りを行っており、再整備計画を進めている。

まちづくりの羅針盤をもとに、ハーフ面とソフト面とともに見直し、豊かな村を次世代へと引き継いでいきたいと話す山田村長に、就任にあたっての抱負や重点事業について、あわせて建設業界への思いなどを聞いた。

建設業界では、「新たな基盤整備」の一環として国道の4車線化に伴う村松・石神地区の新たな地区運営を進めてきた。24年度で計画期間が終了するにあたり、本年度から29年度までの5年間を計画期間として新たな総合計画として「まちづくりの羅針盤」、「いのくら」のデザインと現実を策定。名称も改め、新たな気持ちで計画を推進し、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、村民との協議をしていく。

現在は、国道6号の4車線化を進めているが、その

緩和し、直売所や店舗など

が進出できないかと考えていています。

周囲には店舗などが少なく、工事完成後は単なる通

過道路になってしまう可能

性がある。地域住民の生活

の利便性向上に向け、店舗などの整備ができないか検討している。

周辺には景勝地があり、その

や大神宮などがあり、その

周辺には景勝地が広がっている。村松地区整備として

村では周辺地域活性化計画

に合わせた阿漕ヶ浦周辺の

面的整備を計画している。

具体的には、国道245号の阿漕ヶ浦公園人口のT

字路を十字路に改め、J

IPARCへのアクセス道

路付近に駐車場などを整備

して、村松海岸へ気軽にアクセスできる散策路として

利用できるよう計画している。

付近では豊かな景観と砂

防林の機能回復を目的に

行っている植樹活動「リ

ジエネプロジェクト」を行っており、地域住民や

観光客などが自由に散策、交流できるような場所となれば、村へ人が訪れるきっかけになるのではないかと考えている。

本年度は整備に向けて基本計画の策定を進めている。来年度以降の整備着手目標に、インフラ整備と合わせて事業を促進していく。

具体的な計画がまとまっていない段階ではないが、国道6号の4車線化に伴い周囲

石神地区整備については、また、コミュニケーションセンターのバリアフリー化を推進。石神・村松・白方コミュニティセンターへのエレベーター設置について、公共交通事業者および利用者からの意見や要望などの聞き取りを行っており、再整備計画を進めている。

まちづくりの羅針盤をもとに、ハーフ面とソフト面とともに見直し、豊かな村を次世代へと引き継いでいきたいと話す山田村長に、就任にあたっての抱負や重点事業について、あわせて建設業界への思いなどを聞いた。

建設業界では、「新たな基盤整備」の一環として国道の4車線化に伴う村松・石神地区の新たな地区運営を進めてきた。24年度で計画期間が終了するにあたり、本年度から29年度までの5年間を計画期間として新たな総合計画として「まちづくりの羅針盤」、「いのくら」のデザインと現実を策定。名称も改め、新たな気持ちで計画を推進し、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、村民との協議をしていく。

現在は、国道6号の4車線化を進めているが、その

緩和し、直売所や店舗など

が進出できないかと考えていています。

周囲には店舗などが少なく、工事完成後は単なる通

過道路になってしまう可能

性がある。地域住民の生活

の利便性向上に向け、店舗などの整備ができないか検討している。

周辺には景勝地があり、その

や大神宮などがあり、その

周辺には景勝地が広がっている。村松地区整備として

村では周辺地域活性化計画

に合わせた阿漕ヶ浦周辺の

面的整備を計画している。

具体的には、国道245号の阿漕ヶ浦公園人口のT

字路を十字路に改め、J

IPARCへのアクセス道

路付近に駐車場などを整備

して、村松海岸へ気軽にアクセスできる散策路として

利用できるよう計画している。

付近では豊かな景観と砂

防林の機能回復を目的に

行っている植樹活動「リ

ジエネプロジェクト」を行っており、地域住民や